

Information

# 花とみどい



Vol.72  
2019.3.22

特集：輸出用盆栽の生産と課題解決のための取組



盆栽の輸出を振興するプロジェクトに取り組みました（詳しくは3ページ）



彩の国  
埼玉県

埼玉県花と緑の振興センター



# 所長あいさつ

## ～ 本県花植木産業のこれから (チャンスを生かす) ～

花植木生産は、総体としては、平成 10 年頃をピークに産出額が減少している傾向にあります。そういった中で本県の花植木産業は花きと植木類を合わせて全国で第 4 位 (平成 28 年度) の規模を誇り、一大産地としての地位を確保しています。

本年は、ラグビーワールドカップ、来年には東京オリンピック・パラリンピックといったビッグイベントが予定されています。これらのイベントは、花植木産業の発展にとってまたとないチャンスととらえています。併せて、本県が得意としている盆栽では輸出への要請が高まっています。これらの機会を適切に活用し県内花植木産業が発展していくよう、当センターでは関係団体等と密接に連携し様々な取組を行っています。

そのひとつとして、足元の体質強化を図っていくことは重要なテーマであり力点を置いています。そこで、これまで進めてきていた人材育成等に加え、民間需要を喚起することの第一歩として主に建築士等実需の方々を対象として住宅建設等

の場で本県産植木等を選んで使ってもらうための情報提供を行う産地見学会を開催しました。こういった方々に産地情報を適切に伝えることはもちろん重要ですが、逆にニーズに係る情報をいただきそれに対応した生産を行っていくこと、体制を整備していくことも重要と考えています。

当センターでは、今後とも、その時々的確な状況の判断のもと、将来を見据えた上で必要な取組を積極的に展開していきたいと考えていますので、皆様の御支援をお願いいたします。



オリ・パラを彩る夏色花壇 (実証事業)

## 生産者紹介

有限会社 たかはし園芸

たかはし  
高橋

ともき  
智樹 氏

### ■ 沿革

昭和 50 年代、世田谷区や杉並区で盆栽や園芸植物を扱っていた生産・流通業者のうち数軒が、広い土地を求めて深谷市櫛引に移住しました。高橋氏の祖父もそのひとりで、現在の地で開業して約 40 年になります。

智樹氏は高校卒業後、香川県高松市の盆栽園での研修を経て、20 歳で実家に入りました。

深谷市櫛引で盆栽や鉢物の生産・流通業を営んでいます。



### ■ 経営の特徴

経営規模は約 50a (露地 30a、施設 20a)。

園は会社組織になっているので、父の重栄氏とは、社長と社員という関係で仕事をしています。扱っている樹種は、主力の五葉松、真柏 (シンパク)、モミジ・カエデ類などをはじめ 100 種類以上。インターネット販売も行っています。

また、輸出にも力を入れていて、EU 諸国向けの輸出用盆栽は 10,000 鉢を超える数量を登録するなど、県内でも有数の輸出盆栽生産者です。このため、秋冬の輸出シーズンには、連日のように海外のバイヤーが訪れます。

### ■ 地域活動

深谷市で盆栽業を営む若手盆栽家で「深谷盆栽」というグループを結成し、深谷市農業祭への出展や、深谷市の施設「深谷グリーンパーク」で盆栽講座を開くなどの様々な活動を行っています。

智樹氏は「近年、インターネットで情報を得て来園してくれる 20 代～ 40 代の若い人が増えています。これからも仲間と協力し、深谷盆栽をもっと PR して地域を元気にしていきたいです」と熱っぽく語ってくれました。

### 取材を終えて

高橋氏の園は、生産はもちろんのこと、お客様にわかりやすいレイアウトで「買いたい！」という気持ちを高めてくれる園です。敷地内の清掃など管理はとても行き届いており、高品質な盆栽を生産するための心意気を実感させてくれました。



## 緑のコラム

### ● 盆栽輸出の現状と課題

本県の盆栽輸出については、出荷・販売金額が国内トップクラス（2015年1億7800万円農水省推計）で、EU諸国を中心に行われ、高い評価を得ています。海外では日本食や錦鯉など日本文化への関心が高まっており、植木盆栽類の輸出は今後も大いに期待されるところです。そこで当センターでは、県内盆栽生産者で組織された「埼玉県輸出盆栽研究会（小櫃敏文会長）」を中心に、技術指導や輸出に関する情報提供を通じ盆栽の輸出振興を促進しています。

ところで、盆栽等を輸出しようとする際には、植物に有害な病害虫の侵入とまん延を防止するために、相手国が要求する検疫条件を満たす必要があります。さらに、相手国の輸入検疫を受け、合格して初めて相手国への輸出が可能となります。本県盆栽の主要な輸出相手先であるEUでは、植物に寄生する線虫が検出されないことが条件であることから、この条件を満たすことが、盆栽等の輸出拡大をする上で最大の課題となっています。

### ● 線虫による汚染拡大防止に向けた実証事業の取組

当センターでは、平成28年度から30年度の3か年プロジェクト「植木類の輸出における線虫事故を防止する技術の開発及び実証」事業に、農研機構中央農業研究センター、千葉県、福岡県ほか関係機関と共同で取り組みました。植木類・苗木・盆栽のうち当センターは盆栽を担当し、線虫が、盆栽から盆栽へ移動しないように、隔離による防止はできないかを課題としました。輸出検疫条件上、盆栽は、地面から50cm以上の高さの棚に置いて管理を行うことが義務付けられていますが、線虫が、盆栽のかん水に伴って棚板上を移動する可能性があるため、生産者が取り組みやすい防除方法を検討しました。棚板上に市販の波板を設置し、排水を共有させないことで汚染が防止できないか、生産者の協力の元の実証事業を行っています。

### ● 生産者への事業成果の提供

事業3年目である本年9月26日、さいたま市大宮盆栽美術館で、盆栽生産者・植木生産者と実証事業の参画機関が、線虫対策の中間報告と意見交換を行いました。生産者からは一日も早い線虫対策の確立が強く訴えられ、線虫事故に対する相互理解が進んだ有意義なものでした。翌27日、実証ほ場や輸出に取り組む盆栽園を視察しました。

3年間の事業成果として、生産者向けに植木盆栽類の輸出を促進するためのマニュアルを作成しました。このマニュアルを活用して、植木・盆栽類の一層の輸出振興につなげていきたいと考えています。

### 「線虫（センチュウ）」とは

農産物の枯死、萎凋、形態異常などを引き起こす線の形をした生物（農業では「害虫」扱いされることが多いが、分類上は昆虫の仲間ではない）。植物寄生性線虫の多くは肉眼で確認できないほど小さい。



画像提供：有限会社ネマテンケン



## 園内の植栽樹木の紹介 ⑥

当センターでは、園内には約2,000品種の植物を植栽し1年を通じて来園者にお楽しみいただいています。このような植物の中から、今回は一風変わった使い方が可能な葉の植物をご紹介します。

### ● 書く

「タラヨウ」はモチノキ科の常緑樹です。葉の裏側に先のとがったもので傷をつけると変色し、書いたような跡が残ります。「タラヨウの葉に字を書く」小学校の体験学習は好評を得ています。郵便ハガキは「葉書」と書きますがその語源とも言われ、平成9年には「郵便局の木」に定められています。



タラヨウ ●

### ● 包む

「ホオノキ」はモクレン科の落葉広葉樹です。葉の長さが30～40cmにもなることなどから、古くから、食物を包んだり、食材を乗せて焼く料理に使われるなど、今でも郷土料理などで目にするることができます。



ホオノキ ●



## 植木の産地見学会・情報交換会を開催

植木の民間需要の拡大につなげようと、平成30年12月5日、県建築士事務所協会会員をはじめ造園事業者など実需の方々を対象とした「植木の産地見学会・情報交換会」を開催しました。当日は実需者31名の参加をいただき、まず川口市内の植木生産ほ場2か所を見学、当センターに移動し生産者団体と情報交換を行いました。生産8団体による産地や取扱品目などプレゼンテーション後、名刺交換と情報交換を行いました。参加者からは「生産者の話を直接伺い産地を知ることができ参考になった」など、御好評をいただきました。今後も実需者に使ってもらえる産地として発展するよう需要拡大に取り組んでいきます。



植木生産ほ場の見学

## 大学生のインターンシップを受け入れました

当センターでは植木造園や緑化に係る人材育成のため、植木生産者等関係者を対象として、知識や技術向上のための高度な研修のほか、未来のある若い人の職業選択に役立ててもらおう大学生インターンシップの受入れなどを行っています。今年は宇都宮大学農学部と法政大学生命科学部の学生計2名を受け入れ、平成30年8月20日～31日の約2週間、園内植物の管理や線虫調査業務体験、植木生産者や卸売市場の見学なども実施しました。



線虫調査を体験

## お知らせ 緑化講座に参加しませんか

当センターでは花と緑について楽しみながら学んでいただき、消費拡大につなげようと緑化講座を開催しています。

内容は、身近な植物の管理、寄せ植えの講習など、季節に応じ、毎回異なるテーマで月1回程度開催しています。どなたでも参加できますが事前申込が必要です。県広報誌「彩の国だより」や当センターホームページでお知らせしますのでお申込ください。講座にお越しの際は、植物展示園の見学と併せてゆっくりお過ごしいただくのがいいでしょうか。

皆様の御参加をお待ちしています。



ハンギングバスケットづくり

Information **花とみどり** 平成31年3月22日発行

発行所/埼玉県花と緑の振興センター  
 発行人/埼玉県花と緑の振興センター 所長 田村 真実  
 電話: 048-295-1806 FAX: 048-290-1012  
 HP <http://www.pref.saitama.lg.jp/hana-midori/index.html>  
 E-mail [h951806@pref.saitama.lg.jp](mailto:h951806@pref.saitama.lg.jp)

 環境にやさしいベジタブルインクと、再生紙を使用しています。

